

(1) 国際ミサを通して多様性ある交流の更なる推進

各共同体の現場における多国籍信徒との相互の更なる文化的理解をすすめる、言語や習慣の違いを十分に理解したうえで、その多様性を尊重しつつ、よりよい交流の形を探ること。たとえば、基本的にミサは皆が一堂に会して日本語ミサの現場に集い、聖歌はもとより、朗読、奉納、主の祈り等、多言語で歌いかつ唱えるよう努める。むろん、英語ミサ、越語ミサ、タガログ語ミサが行える環境は常に整え、できる限り月に一度は実践する。

(2) 青少年の人材育成

各共同体にとってこの課題は喫緊の問題である。高齢化が進む中、教会来られている信徒はその殆どが 60 歳以上である。20 代以上の信徒、或いは子どもたちは教会のミサさえ来られていない。何とかして教会ミサに来られていないこれら若い世代の信徒の掘り起こしは緊急の課題である。特にフィリピーナ家族の子どもたちを教会学校等で集める努力は欠かせない。そのためには若い世代(30 代から 40 代)の家族で未信者の子どもも含めた、教会学校、その他イベント等を企画して、教会に集めることは必須の課題と言える。このように、若い既婚者家族への司牧的アプローチは重要である。

(3) 実行委員会の設置

各共同体は、いくつかの問題解決のため、実行委員会を作ることが求められる。丹後教会には、すでに峰山大宮礼拝堂の地域貢献及び跡地利用での新規事業計画のために特別委員会を設置、解決策を話し合っている。また、重要文化財指定を受けた宮津洗者聖ヨハネ天主堂は、その耐震強化及びそれに伴う改修工事等に関する委員会を聖堂委員会と称してこの 2 年の間、活動して来た。さらに丹後教会では、次年度中に向けてより具体的な体制作りとして、組織再編を考える委員会も一年前から動き出している。また、今年度、新たに丹後教会合同の墓地管理委員会、西東量舞鶴教会合同の墓地管理の委員会を構築する予定でいる。

(4) インターネット環境の整備について

各共同体は、前年度より Wi-Fi などのインターネット環境を配備整備に力を入れてきた結果、東西舞鶴教会、福知山、そして宮津では、すでに Wi-Fi 環境を整えつつある。すでにオンラインでの北部ブロック会議は定着しており、今後の委員会や主な会議においても ZOOM を使っている。またラインを使った連絡、や日程調整も普通にできるようになっている。更に facebook 等のアプリを利用して情報発信の広報活動もできるようになってきた。また公式 HP も 公開され、教会からの情報発信及び情報共有は社会との接点、窓口になるという意味からも IT 関係ツールは、大いに活用されるべきである。

(5) 宣教司牧活動の拠点化の推進

教会事務所の機能を充実させるため、とくに丹後教会では宮津のルラーブ館の一隅に簡単な事務所を設けた。そこで PC を設置し防犯カメラを 3 台取り付けることで、訪問客の受付体制を強化した。これは今年、2025 年聖年の巡礼教会としての指定を受けたことが契機となった。今では、月の第 2、4 の土日に司祭も宮津司祭館に常駐し、土曜の午前午後及び日曜日の午後とボランティア信徒を配置、受付を始めている。そもそも、宮津は丹後教会の所在地であること、それが事務所化の基本にはあった。

(6) 聖年での巡礼活動について

京都教区より聖年の巡礼教会として宮津と福知山の両教会堂が指定されたことを受けて、両教会ではそれぞれ受付体制と整えて来ている。また福知山教会は新聖堂の 10 周年記念ミサはこの 5 月に企画されている。宮津聖堂はこの 4 月から耐震診断および強化補強の見積もりが始まる。今年 9 月には少なくとも耐震調査事業が始まる予定である。更なる寄付金集めが喫緊の課題となっている。

(7) 北部ブロックの 2025 年度の目標

北部ブロック全体の目標としては、基本は変わらない。シノドス的な教会活動の一環として進めるべきことは、教区長が掲げた<道と宿>を理念として、信徒司祭が共に協働して宣教司牧を展開することにある。具体的に、それらが指し示す方向は<出向く>ことである。つまり、地域社会のニーズに貢献するために教会のできることは何か、これを地域住民と共に探り、寄与できる教会共同体となることである。各地区では、すでに具体的なアイデア、工夫、意見を出し合って、音楽会や教会ピアノ事業を展開、地域の人々とともに、交流と出会いの場を実現してきた。今後もこれらの活動は様々な仕方でも展開されるだろう。

《各共同体の宣教司牧計画と目標のまとめ》

＜東舞鶴教会共同体＞

- (1) 長期目標は、福音宣教する共同体となること。司祭、修道者、信徒が協働して共に歩む共同体となる。聖霊に従い、弱い立場の人の側に立ち、これに耳を傾け、イエスと共に歩む。
- (2) 短期目標は、多国籍な方々と出会い、交わりを大切にしながら、共に喜び祈る共同体となることを目指す。そのために多様性を尊重し、次世代の子どもたち、若者世代の信仰をともに育てていくこと。SNS等を利用し若い人々に呼びかけ、かつ共同体への参加を促す。司祭と協力し病人や体の不自由な方を訪問し、教会に来られていない人への連絡や訪問を行う。
- (3) コミュニケーション方法を駆使し、現状にあった教会のあり方を見直していく。そのためには、掲示物等の活用やメッセージ配布を継続的に行い、SNSを活用した広報活動を進める。
- (4) 墓地管理委員会の新たな形を作ること。西舞鶴教会と連絡を取り合い、新たな組織編成を考える。具体的には合同の墓地管理委員会を創設すること。東西委員会を開き、話しあいを持ち、共同墓地等の課題について意見を取りまとめる。

＜西舞鶴教会共同体＞

- (1) 国際交流の更なる推進と青少年の育成
- (2) スローガンとして《ひとつになろう》をテーマに掲げる。文化、言語、習慣の違いを受け入れ、多様性をもって多国籍の人々と交わる。さらに教会に来られていない信徒の方々と掘り起こし、教会ミサへの参加を促し、小教区共同体としてひとつになることを目指す。

＜丹後教会共同体＞

- (1) 多くの人が集う教会になる取り組みとして《出向いていく教会》になろう。教会を離れている信者や初めて教会を訪れる人にも声をかけ、教会活動へと参加を促すこと。(初聖体、堅信などの勉強会、聖書の学習会、音楽会などの行事)
- (2) 宮津天主堂訪問者対応の充実を図る。聖年の指定巡礼教会となったことを受け、主日ミサを月に二回に増やし、第2、第4の土曜、日曜を聖堂公開日とすることを新たに決めた。そのため、信徒をボランティアで受付対応を計った。具体的にはルラブ館に事務受付デスクを置き、PCでの管理、防犯カメラも設置した。さらに、天主堂の耐震診断および補強工事などの改修事業については、耐震診断の書類申請が今年6月にあって、9月ごろその回答が出る。そこで初めて耐震診断調査に入る、という予定で進めている。この改修事業に伴い、診断補強費もかかってくるので、早急に寄付金集めに力を注ぐこと。
- (3) 老朽化した峰山大宮の各聖堂については、峰山大宮特別委員会は、今年度も継続審議で始まる。より具体的に福祉会さんとの協議が始める。老朽化した建物の譲渡及び解体による補修リフォームなど費用の掛かる課題は多い。教区との相談を計りながら進めること。
- (4) 聖年での取り組みとして、ひとつは丹後教会だけではなく、北部ブロック主催の巡礼計画を企画すること。秋ごろに実行する予定です。
- (5) 小教区評議会体制の見直しについては、役員人事及び地区制度の見直しを図ることで、人材不足を緩和し有効に運用できるようにしていく。その他、墓地管理の一体化を進めること。さらに研修会を開催し、特に聖体奉仕者養成を図ること。但し、基本的な勉強が肝要である。

《福知山教会共同体》

- (1) 長期目標としては、交わり、参加、そして宣教をモットーに、多国籍の方々と力を合わせて、共同体づくりを計画、実行すること。
- (2) 短期目標としては、教会が希望をもって共に歩む場となるよう、信徒間の交流を図ること。また、そのためには巡礼指定教会として、この恵みに感謝し、地域に開かれた教会として巡礼者を温かく迎えるよう、準備を整えること。